

令和6年2月5日
生涯学習課

「旧林愛作邸」の保存について

1 主旨

駒沢一丁目1番に、大正6年（1917）にフランク・ロイド・ライトが設計し、建築された「旧林愛作邸」が現存する。

区では、貴重な歴史的建造物であることを踏まえ、平成27年に街づくり条例に基づく「街づくり誘導指針」を策定し、現位置での保存を基本として適切な保全をお願いするとともに、教育委員会としても、文化財指定による保護について所有者に要請してきたところである。

今後、当該敷地において土地利用が想定されることから、「旧林愛作邸」の現地保存の必要性を明確にするため、所有者に対し文書により、将来的な公開及び活用を含め、文化財保護制度の下での保存を求めることとしたので報告する。

2 「旧林愛作邸」の概要

- (1) 所在地 駒沢一丁目1番
 (2) 建築年代 大正7年頃
 (3) 規模等 ①敷地面積 27,544.70㎡
 ②延床面積 333.31㎡（地下19.00㎡含）
 ③構造 木造平屋建（一部地下1階）
 (4) 平面図等 裏面以降のとおり
 (5) 文化財概要

「旧林愛作邸」は、米国出身の建築家フランク・ロイド・ライトが、当時帝国ホテルの支配人であった林愛作の自邸として設計し、建築された建築物である。

ライトは、近代建築の三大巨匠の1人と称され、「フランク・ロイド・ライトの20世紀建築作品群」8件は、ユネスコ世界遺産に登録されている。ライトの建築作品は、北米及び日本にしか存在せず、国内には「旧林愛作邸」の他、玄関のみが移築された帝国ホテル旧本館及び2棟の重要文化財の計4棟が現存するのみである。「旧林愛作邸」も2棟の重要文化財と同様に貴重な近代遺産であり、国民共有の財産といえる文化財である。

昭和25年から企業の福利厚生施設の一部として利用されてきたが、令和3年に不動産会社に所有権が移転した。

3 これまでの経緯

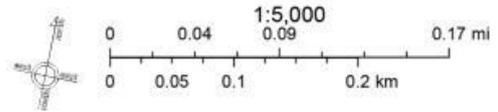
- 大正 6年 F.L.ライトにより「林愛作邸」の基本計画図作成
 7年頃 駒沢町駒沢一丁目919番地（現駒沢1-1）に林愛作邸竣工
 13年 別の所有者に所有権移転
 昭和25年 (株)電通が取得
 平成27年 街づくり誘導指針策定
 令和 3年 住友不動産(株)に所有権移転

4 今後の予定

令和6年2月9日 教育委員会 に報告

2月中旬 保存に係る要望書を所有者に提出

案内図 S=1/5000



この地図の作成に当たっては、国際航業株式会社の承諾を得て、国際航業株式会社に著作権が帰属する白地図データベースを使用しています。

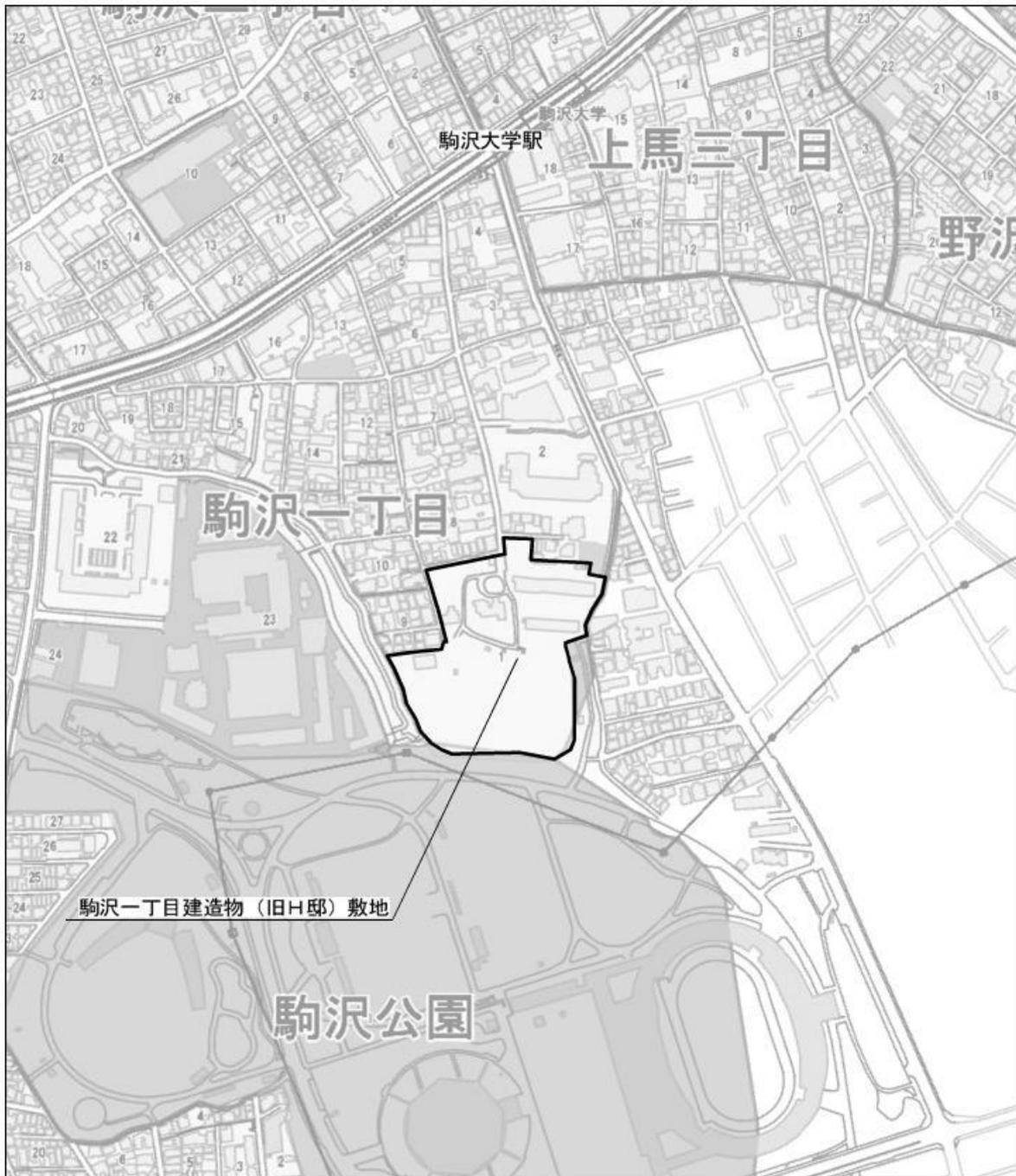




写真1 旧林愛作邸 玄関



写真2 旧林愛作邸 徒渉池からみる大広間外観